

沼南RC・我孫子RCクラブ協議会

日時：平成21年7月30日
場所：ホテルマークワン我孫子



2009-2010年度 RI会長テーマに沿った活動を中心とした 効果的なロータリークラブとなるための活動計画の指針

開会の言葉	司会 我孫子RC立野幹事
ガバナー挨拶	我孫子RC会長 上村文明
ガバナー補佐挨拶	2790地区ガバナー 中村博亘
	第10分区ガバナー補佐 瀧日 明
沼南ロータリークラブ	
会員増強について	会員組織委員長 高本拓司
CLPについて	奉仕部門アドバイザー・理事 渡邊 隆
	――休憩――
我孫子ロータリークラブ	
職業奉仕委員会	職業奉仕委員長 上村晃一
会員選考・増強委員会	会員選考・増強委員長 小池喜之
社会奉仕委員会	社会奉仕委員長 星野 栄
クラブ奉仕委員会	クラブ奉仕委員長 塩毛康式
閉会の言葉	沼南RC会長 新田辰吉

開会の言葉

我孫子RC 上村会長



皆様のご協力で、無事に進行している事を感謝いたします。我孫子クラブは、CLP体制に関して大変遅れていると認識しております、沼南クラブにおきましては、CLPの書式を定め、CLP組織として既に活動されていて、この2つのクラブがクラブ協議会を開催するのは、会長として、戸惑いがありました。しかし、長い間、合同でクラブ協議会を行っているので、歩調を合わせなければと考えております。

今年度のRI会長のジョン・ケニーさんが、言われた「ロータリーの未来はあなたの手の中に」の中で、「あなたがたの手…」ではなく「あなたの手…」にと言われたのが、感銘を受けました。これから我孫子クラブもCLPに沿った形で、我孫子クラブ独自のCLPを是非、実行して行きたいと思っております。後ほど、既にCLPを実行している沼南クラブのお話しも聴けるので、楽しみしています。中村ガバナーを中心に、実のあるクラブ協議会になる事を祈念しまして開会の言葉とさせていただきます。

ガバナー挨拶

2790地区ガバナー 中村博亘様



会長・幹事さんとの間で、随分言い尽くしてきましたが、皆様と一緒にクラブ協議会を行える事を楽しみにしております。皆様とも顔見知りの間柄ですので、私も忌憚の無い

意見を言いますので、皆様もごつくばらんに訊いていただければ、私もそれに答えますので、実のある協議会にしたいと思っております、宜しくお願いします。



午前中にクラブ懇話会を行い、その中で、興味のある事がありましたのでご紹介します。

当然CLPの話題が中心だったのですが、先程ガバナーの挨拶にありましたが、社会的な奉仕なの

か、個人的な奉仕なのかに関連した質問を上村会長が質問をしました。私たち日本人は、仏教的背景なので、一元論ということで社会的な奉

仕になって、欧米は、キリスト教で、二元論になって、個人的な奉仕になるとすれば、完全に宗教的な違いになってしまい、これを乗り越えることが出来るのかをガバナーに質問しました。するとガバナーは、これは文化の違いで、議論しても解決しないので、ガバナーの先輩からの言葉として「ロータリークラブの運営をゲームと考えたらいいだろう」と、答えられました。これを我々に当てはめると形としてはRIの組織を受け入れるが、実際の運営は、我々のやり方でやるという考えをとれば、やっていけると思います。

会員増強について

沼南RC会員組織委員長 高本拓司様



CLP導入にあたって、会員組織で大変な恩恵を受けたひとりでありませぬ。前期の会長ときから、訴えていたのは会員増強でした。

どのようにして、会員増強を支えていけば良い

か、我々ロータリアンがどのようにロータリアンを育てれば良いか、それが表裏一体である事を認識することから始まるのではないのでしょうか。入会される前にロータリーが掲げる理想について少しでも理解して頂けるように我々全会員が努力しなければいけません。

過去に当クラブでも、ロータリーの理想やロータリーについて知ってもらう前に新会員が脱会しているのが、現状でした。それは、ロータリーに関する説明やロータリアンの資質について十分に検討できなかった事にあると思います。

そこで沼南RCでは、クラブ選考委員会で、十分検討し、ロータリークラブが掲げる理想について、少しでも理解してもらえぬ方に入会してもらう事にしました。RI前会長は「夢を形にする仲間を増やす」というスローガンを掲げ、会員増強に力点を置き、次の様に強調されています。「会員増強が一番大切な事ではないか なぜなら新しい会員一人一人が夢を形にする一人だからです。」

私たちが目標を達成する上で、新会員を入会させる事は、新しい「手」「頭脳」「心」が私たちの勢力になってくれる事を決して忘れてはなりません。

会員増強について、もっと広く包括的に考えていかなければなりません。一番強いロータリークラブは、年齢・性別・職業・技能の多様性を持ったクラブです。

会員増強にあたり、沼南RCでは、前・後期の入会予定者それぞれ3名による卓話を予定しています。

前期は、5チーム編成で各チーム2名、合計10名の候補者をリストアップしました。今年は全会員一丸となって、会員増強運動を展開を目標にし、一人一客を目指します。

ロータリーを知る事も大切で、脱会防止にも繋がります。ロータリーに慣れる事が第一です、例会や集会・勉強会等に参加し、判らない事は先輩に訊きことです。その為にロータリー情報委員会があります。

会の活性化・充実を図る為に新会員を入会させるという責任を共有し、ロータリーに関心を持ち続けてもらうのがロータリアンの責務です。

仲間と、語らい・楽しい・明るい例会を楽しみましょう。

今年度の終わりには、会員増強の目標の達成感と充実感の中で締めくりたいと思います。

CLPについて

沼南RC奉仕部門アドバイザー・理事 渡邊 隆様



沼南RCがCLPを事実上立ち上げた課程と、一ヶ月たった現状、今後どのようにするかというマニフェストを、お話ししたいと思います。

CLPを立ち上げた前提には、中村ガバナーが

RIから指示されたCLPの根幹のことをお話しして頂きました。沼南RCではそんなに深刻な難しいことを前提にしてCLPを立ち上げた訳ではありません。理由として、22~3名のクラブが、創立100年目を迎えた200名を抱えるクラブ

と同じ事をやれと言うのは無理だということで、どうすればクラブが活性化することが出来るのかを考えるかという事が当クラブのCLPではないかがスタートでした。高本前会長からリーダーに任命され、5名のプロジェクトチームを組み、情報・資料等を取り寄せて、沼南RCのひな形が出来上がりました。そのひな形を基に全体会議や理事会、プロジェクトチームで話し合い、新田会長・富澤幹事の出发点にしようと言う事で立ち上げて来ました。組織をスリム化して風通しを良くしようというのが、プロジェクトチームの最大の目的でした。組織が変更になりますので、RI推奨するの5項目の常任委員会を参考にしま

して、5つのセクションを作りました。RIから提示された、退会防止・クラブ広報・クラブ管理運営・奉仕プロジェクト・ロータリー財団となりましたが、退会防止を最初にもってくると、後の情報や親睦、出席をどうするかということになり、退会防止を会員組織に変更しました。会員組織の中に、会員増強・退会防止・職業分類・会員選考・出席・ロータリー情報をまとめました。クラブ広報は、広報に専念してもらうということで、広報・会報・雑誌。クラブ管理運営には、プログラム・SAA・親睦ロータリー家族。奉仕プロジェクトには、四大奉仕・新世代。ロータリー財団には、ロータリー財団・米山を入れました。そしてキャリア不足を補う為に、会員組織・クラブ広報・クラブ管理運営を管理部門、奉仕プロジェクト・ロータリー財団を奉仕部門とし、それぞれにロータリーのキャリアを積んで、沼南RCにも精通したアドバイザーを置く事になりました。このアドバイザーは、CLPが軌道に乗ればなくなります。

組織は出来上がりましたので、これをこの後、どう発展させて行くかは、会員一人一人の努力と発想、展覧に係っているのだと思います。出来上がって1ヶ月経ち、新しい年度なって、私が奉仕部門の活動方針は、「新しい奉仕活動を立案しなくてはいけない」「CLPを導入したのを機に新しい時代に合った奉仕活動を始めたい」と会員に話したところ、早速2つの案が出ました、その一つがペットボトルのキャップ集めです。しかし、キャップ集めは、どこででも行っており、同じ事をして意味がないので、色々資料を集めて検討しました。その結果、エコキャップ推進協会と団体に行き着きました。この協会は、キャップを焼却処分する際に発生する二酸化炭素を抑制するために、リサイクルを行っています。キャップをリサイクルすると、キャップ800個で20円になります、この20円という数字に着目しました。RI会長が提示した、ポリオ撲滅キャンペーンの一人分のワクチンの価格と同じなのです。エコキャップ推進協会でもポリオワクチンを途上国へ送っています、ロータリーもエコキャ

ップ推進協会も目的は同じで、方法によっては中村ガバナーがおっしゃった品格や発想の転換があれば、何か大きな輪になっていくのではないかと考えて、社会奉仕・国際奉仕委員会にアドバイスしました。昨年の沼南祭りが開催された時には、ポリオ撲滅の寄付金を募ろうと、募金箱を持って会場をお願いをして廻った結果、5万円が集まり、地区の財団を通して寄付させて頂きました。こうした活動が認められて、去年は、地区の社会奉仕委員会からは、社会奉仕優秀クラブと表彰を受けました。キャップの集め方ですが、子供たちに自分のゴミは自分で持って帰るという趣旨で作られたゴミ袋があり、これにロータリーはポリオ撲滅運動をしていますという印刷をして、配布したらどうかと考えています。例会の度に会員がキャップを持ってきても意味がありません、地域で集める方法を考えなくてはいいけません。こうしたことが軌道に乗っていけばロータリーの活動が世間広まり、ロータリーに関心をもってもらえると思います。

もう一つはAED(自動体外式除細動器)です。日赤の方から、是非、沼南RCで広められないかとお話がありました。設置場所、使用方法、つかいかたが判らない時の対処方法など、色々考えています。

この二つは奉仕プロジェクトチームで取り組んでいきます。

この1ヶ月で感じたことは、みんな積極的になり、色々な奉仕活動に対し共有感が生まれ、委員会の枠を乗り越え取り組んでいます、又、期間も単年ではなく、長期に渡った奉仕活動を立案して行こうと考えています。

管理部門に至っては、例会会場の設営を今まで、一部の会員の方をお願いしており大変な負担を強いてきましたが、今は、交代で行うようになりました。

これが、沼南クラブのCLPです、RI会長の言われている物とは程遠いですが、私たちの身の丈に合ったCLPであります。

CLPは自分たちで作る、自分たちで考えたCLPには責任も行動も出てくると思っております。

中村ガバナー

高本さんの会員増強については、会員増強の必要性言うまでもありません。その為には、ロータリー情報の徹底だろうと思います、新会員が脱会されるのは、ロータリー情報が徹底していないからだだと思います。CLPでも新入会員のオリエンテーションには力を注ぎ、クラブに研修リーダーを置いて、研修を行う事と書いてあります。又、新入会員を増強される場合は、地域社会の職業の多様性を活かした職業分類が必要であると書いてあります。新入会員予定者の卓話は素晴らしいアイデアだと感じました。渡辺さんには、CLPの全てを話してもらいました、これがCLPなのです。クラブに合わせる、クラブに適応するように柔軟性を持たせるというのがCLPなんです。

ペットボトルがポリオワクチンに変わるわけですが、ポリオ撲滅はロータリーの最大の課題です。今99%にまできています、しかし残す所は、ナイジェリア、アフガニスタン、パキスタン、インド西北部でいずれも紛争地域で貧困地帯でワクチンを投与するのが大変難しい地域です。日本のロータリアンは、金は出す事で協力をしています、海外のロータリアンは自ら参加しています。日本にも何名かいるようですが、あまり聞きません、先日、問い合わせがあったので、事務局に問い合わせをしている所です。ビルゲイツは、多額の寄付をし、自ら自家用機に乗って、ワクチンを届けています。私たちはお金を出す事しか出来ませんが、このキャップ集めをがんばって頂きたいと思います。



職業奉仕委員長ですが、このままで良いのかと思う点を2つお話ししたいと思います。

一つ目は、この地区には、1995年当時4,350名の会員がいましたが、現在は約2,800名で、15年間で約1,500名の減少です。日本国内でも30,000から40,000名の減少となっている状況において、ここ10年は毎年、ガバナーが来られると、会員増強と財団の寄付を要請しています。会員減少の原因を追求しないまま、ただ、会員増強と寄付の話をして、会員は増えないと思います。RIが言っている、会員増強と財団の話は日本には合わないと思っています。その部分を何も検討しないで、RIが言っているから会員増強をと言っても、また、減るでしょう。私は、CLPはやらずに、本来の職業奉仕と親睦という原点に帰ったやり方が一番良いと思います。原因を認識しなければ、ますます会員は減るのではということを考えなくてはいけません。

二つ目は、財団についてですが、国際活動資金は、リーマンショックの関係で140億円赤字になっております。これを補填する為に寄付を要請すると、財団の運用にも疑問が出てきます。こういった事をこういう会議で話す人がいなかったのだから、これからは本音で話していかないと、きれいごとや建前で、やっているというロータリーの魅力がなくなることになります。

中村ガバナー

ロータリーというのは、職業奉仕と親睦で、日本のロータリアンを代表する意見でした。ただ、CLPは職業奉仕の理念を全く無私しているわけではなく、職業奉仕の理念に乗っ取って、奉仕をしましょうと言っています。

WCSの問題についても、その通りで、WCSとの間で揉めております、フィリピンに偏った奉仕活動があった為に、全ての援助金をストップしました。再開するためには、正確なプランを出しなさいと要請しました。

会員選考・増強委員会



ジョン・ケニー会長は、次の様に述べられています「質的にも、量的にも、会員組織を世界的に拡大するのは、重要な優先事項です。これはロータリーが達成すべき目標の全てが会員を振り所にしているからです。資格ある新会員をもたらすことは、私たち一人一人の責務です。しかしながらこの責務を果たしているロータリアンは僅か

私は、40年近く前にロータリーに入りましたが、当時、奉仕活動をやろうとも思いませんでした、何か商売の足しにでもなればと思いましたが、ロータリーの本質について判りませんでした、それを知っていて入れるのは、社会性の高い人でなければ難しいと思います。大上段に構えていると、いけないと思います。こういった根本的な事を話さないで、RIから言われたからやりましょうというのは、ロータリーの活動に限界が来ているのかという気がしています。

自分の職業に通じて、社会に貢献しよう、親睦を深めようという形が本来のロータリー活動だろろうと思います。役に立つ寄付、寄付したお金がどのように使われているのかが判る様にしていかないと、寄付してくことが虚しく思えてくるのではないかと。WCSの資料を見ると、フィリピンに毎年4・500万円の寄付が送られ、クラブごとに配分されている現状があり、これでは、WCSではなく、フィリピンのPを取ってPCSではないかということ、違う地域に寄付をすることにしました。約30年前にスリランカから井上会員に、スリランカに幼稚園を作りたいとの申し出があったので、寄付を送りました、現在は、スリランカで唯一の私立の名門の学校になっております。次にベトナムにも200万円寄付し、鉄筋平屋建の校舎が出来ました、その後150万円を寄付しました、結果、机やコンピュータなどが新たに備えられました。

CLPに関して、我々は職業奉仕というのが、基本で、表に出して行こう、RIに言われたからというのではなく、実態にそった形で考えています。

我孫子クラブは社会奉仕・国際奉仕に大変力を注いでくださっています。

欧米は、社会奉仕に重点を置いています、こういった形になったのは、私たちの代表である理事が、規定審議会で決めたことですので、これに従っていかねばならないと考えます。

財団の件も、その通りで、株で大きな損失を出し、国際活動資金は、条件が大変厳しくなり、人道的な目的以外には使えなくなりました。年次基金については、大丈夫です。

小池会員選考・増強委員長

です。他の人々へクラブへの入会を勧め、会員を増やせるのはロータリアンしかいないのです。」また、「私たちの任務は、地元と国際社会において必要とされる奉仕を提供する事。事業と専門職務に携わるリーダーを新会員として誘い地域社会で好ましいイメージを築きながらクラブの器を広げていくこと」だと。この事は、当クラブの上村会長も、クラブの器を大きく広げると会長挨拶の中で、述べています。増強委員会に与えられた使命として、クラブの器を大きく広げる事、すなわち会員拡大により力を注ぐ事が我孫

子クラブ増強委員会の目標であります。今年度の活動計画としては、内外との情報交換、会員の不満の解消、当クラブへの委員会からの提案を行っていく。次にロータリアンとして相応しいかの、情報および推薦を会員から収集する。そして、勧誘活動と説得を十分にすることです。中村ガバナーから与えられた、純増1名という目標ですが、我孫子クラブとしては、年度末に純増2名を目標にしていきたいと思っています。その為には、活力ある奉仕活動、楽しい例会、信頼する仲間、気持ちとむ切り所となるクラブ、魅力あるロータリーライフという支柱が必要だと考えています。会員の皆様には、認識と活動、推薦と勧誘などは是非ご協力をお願いします。CLP関しても、前向きに検討していますが、会

員増強を4つの活動に分けるCLPは、違うのではないかと、クラブの意見として出ています。クラブ親睦の輪の結果として、社会奉仕事業の結果として、会員増強が図れることからすれば、クラブ全員で活動するのが望ましいのではないかという意見が出ています。我孫子クラブには女性会員はおりませんが、ただ女性会員を増やせば良い物ではないという意見もあります。さまざまな意見を会員増強委員会として、集約し、CLPとの整合性を図りたいと思います。

今年度のテーマの「ロータリーの手の中に」とありますが、「我孫子ロータリーの未来もあなたの手の中に」そして「会員増強もあなたの手の中に」ということで、皆様のご協力をお願いします。

社会奉仕委員会

星野社会奉仕委員長



先日の会議の中で中村ガバナーは、クラブ・リーダーシップ・プラン（CLP）を各クラブの活動計画の中に採り入れてもらいたいという意見を述べられておりました。

この事を踏まえ、我孫子

ロータリークラブでは社会奉仕を通して自クラブを「効果的なクラブ」にするためにはどうしたらよいかについて会員全員で何度も意見を交わした結果、社会奉仕を成功させるには我孫子市民誰もが関心を持ってくれるような奉仕プロジェクトを行う必要があるということに行きつき、本年度も昨年度に引き続き「効果的な我孫子ロータリークラブとなるため」地元地域社会を対象に二件の活動を行う計画をたてました。

＊最初の計画は、れんげの種まきを行う。れんげの種まきについては、当クラブと我孫子市公園緑地課を窓口打ち合わせをし9月から10月の天候のよい日に（利根川ゆうゆう公園）を利用し3千坪の土地にれんげの種まきを行う。11時から13時まで。（種まき、食事後解散）。参加者は市内2カ所の幼稚園、めばえ幼稚園、白ばら幼稚園の園児50名および職員、当クラブ会員全員、そして我孫子市役所公園緑地課の職員15名による種まき。

れんげ種まきにかかる費用（種、砂）7万円。
＊二件目の計画は、当クラブと我孫子市が地域の親と子の絆を深めるためのふれ合いの場を提供する。これは昨年秋に子供たちが種をまいたれんげが花を咲かせその花を見ながら蜂蜜を味わってもらうことを前提に5月はじめに「れんげ祭り」を（利根川ゆうゆう公園）にて行う。企画は当クラブと我孫子市公園緑地課合同で計画し打ち合わせをして、開催日の催し等の内容を4月1号及び4月16日号の「広報あびこ」にて市民全員に周知を図っていく。「れんげ祭り」の当日の日程について、ロータリアンは二班に分かれる（過去に行ったプロジェクト経験、そこから習得したことを生かすため）。

集合時間は午前8時に現地集合。

第一班は、みどり園（千葉県養護施設）体育館にて凧作り及び竹トンボ作りの講習会を開催する。（10時から12時）。

凧作り、凧揚げについては我孫子市在住の日本凧の会の会員に指導を依頼する。竹トンボ作りは我孫子市柴崎に在住の小熊氏に依頼する。講習会費用は4万円程度。

講習会開催時には第一班のロータリアンは参加している子供たちに対し凧作りや竹トンボ作りの指導のお手伝いをする。

第二班のロータリアンは（利根川ゆうゆう公園）に集合。ロータリアンの家族と共にロータリアン手作りの豚汁（400食分）を11時30分ごろまでに煮込み準備をする。

なお、豚汁に使用する材料等については前日午後1時より中峠公民館にて、お手伝い可能なロータリアン及びご家族に集まっておき下準備を行う。当日、市役所の人たちには3張りのテント張りをお願いする。

12時20分ぐらいから「れんげ祭り」を開催し、参加者はれんげの花を見ながら蜜蜂が採取した蜜を養蜂業者から提供してもらいパンにつけて食べてもらう。その後、昼食を兼ねロータリアン手作りの豚汁を参加者全員に振舞う。（豚汁作成費用、15万円）

13時30分から凧揚げ大会を開催する。時間を見計らって凧揚げ大会の入賞者を日本凧の会の支部長さんに決めてもらい表彰する。今年度我孫子クラブが計画した奉仕プロジェクト費用は26万円となりますので、当クラブとしてはロータリー財団からの補助金を使用することも考えているところです。

以上「効果的な我孫子ロータリークラブとなるための」社会奉仕活動である「凧作り、竹トンボ作り講習会」、「れんげ祭り」「凧揚げ大会」の更なる充実を図るためにも継続することが大切であり、市民に対する啓もう活動と参加拡大の要因にもつながるものと思われまますので上記施策については3年にわたる施策にしたいと思ひます。



CLPについてですが、我孫子クラブは、原点に帰って、クラブの生い立ちや経過を考えた上で、次の行動に移れば良いのではないかと考えます。当クラブは今年で44年目になります、当時の会長は、小熊様でチャーターメンバーは井上会員と酒井会員です。創立時は24名でしたが、20年前の最高時は64名おり、今年は28名です。減少幅が大きいので、なぜこうなったのか、我孫子クラブのあるべき道を考えた方が良いと思います。佐藤先生は、同じような事を、やっている組織は衰退していくものです。絶えず改革は必要だとおっしゃっています。しかしただ闇雲に改革をするのは如何な物かと思ひます。中村ガバナーは孔子の言葉の「恕」を用ひていますが、同じく孔子は「温故知新」という言葉

も残しています。師（先生）になる為には、古い正しい物を知って原点に帰って良い物を残していつて、そこに新しい物を入れて行かなくては行けない。

先ほど、厳しい意見をおっしゃっていた上村会員は、CLP導入組織委員会の委員長であります、7月の会合では、組織図も提出され、我孫子クラブが活性化し、魅力あるクラブにするにはどうしたら良いかと、考えておられます。渡邊理事様の「CLPを導入したら、会員の目標が共有化されて良い方向に進み、積極的に参加している」とのお話しでしたので、我孫子クラブも少し遅いかもかもしれませんが、我孫子クラブなりの物を作り上げて行きたいと思ひております。クラブ奉仕委員長は次年度には、会長になるので、今年度、なんとかまとめて、来年度は、新しい組織としてスタートできればと思ひているので、皆様のご協力をお願いします。

中村ガバナー



会員増強には、全員で取り組んで頂きたいと思ひます、後は退会防止です、ね、3~5年で退会される方が一番多いそうです。過去3年間に7500名が入会しましたが、8800名が退会されました。退会を防止する為には、ロータリーの面白さを如何に伝えるかが大切になってくると思ひます。女性会員についてですが、女性会員はいた方が良いと思ひます。積極的にアプローチして

てください。れんげ祭りなど、社会奉仕に力を注がれていて素晴らしいと思ひます、これが広報に繋がり、会員を増やす事になるので、続けて欲しいと思ひます。上村委員長の進めるCLPを楽しみしてあります、来年パストガバナーとして、どのようなCLPになっているか、楽しみにしてあります。今日は、素晴らしいお話しを聞かせていただき、私も勉強になりました。これかもクラブの活性化の為にがんばって頂き、それを地区の活性化に繋げて欲しいと思ひます。本日はありがとうございました。

閉会の言葉



皆様お疲れ様でした、色々なお話しを聞かせて頂き勉強になりました。今後も機会があれば、おねがいしたいと思ひます。どうもありがとうございました。